

【伊藤総領事メッセージ 2018年4月】

今年のトロントの春の訪れは例年より遅いとのことですが、4月になり、春の陽射しが感じられるようになりました。町並みもカラフルで明るくなった気がしますので、現在トロント市内で開催されている日本関連のカラフルな展示会も是非楽しんで頂きたいと思い、御紹介します。

オンタリオ美術館で開催中の「草間彌生展」は、大好評を博しチケットの購入も困難な状況ですが、市内を走る路面電車の中には同展示会を記念して赤と白の水玉模様の外観のものがあり、これを見るだけでも楽しい気分になります。カナダ織物博物館では、辻が花の技術を復活させた久保田一竹氏の作品約40点が展示されています。着物の上に表現された絵画ともいえる



芸術作品はため息が出るほど素晴らしく、是非堪能して頂きたいと思えます。ガーディナー博物館では、「日本年」と称して現代日本人作家の陶器の展示を行っています。作品は3回ほど入れ替わる予定で、現在は第1回目の展示が行われていますので、陶器に関心のあるかたはお見逃しなく！



さて、冬の間は吹雪や寒さの影響が予測しきれず控えていたトロント市以外の地方訪問を少しずつ開始しました。まず3月10日には、ロンドンのヒューロン・ユニバーシティー・カレッジで行われたジャパン・ボウルに臨席しました。ジャパン・ボウルは3人1組の高校生チームが参加する日本語と日本に関する知識のクイズ大会で、米国ワシントン・DCの日米協会が1992年に開始し、現在では米国全土から参加者が集まる大きなイベントになっています。このような大会をカナダでも実施しようと、ヒューロン・ユニバーシティー・カレッジとトロントの日本協会が協力し、



オンタリオ州で初めてのジャパン・ボウル開催に至ったのです。残念ながら、2月中にB.C.州でもジャパン・ボウルが開催されたためカナダ初とはなりませんでしたが、日米協会からの助言も受け、高校生部門と大学生部門の2部門で白熱した大会が行われました。参加した高校・大学はロンドン市所在のものばかりでしたが、審査員やスポンサー、また特別ゲストとして日本舞踊を披露してくれた日

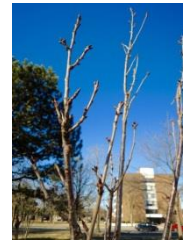
系文化会館の桜会などトロント関係者も多く集まりました。主催者の方々も、将来は全カナダで行う大きな大会にしていきたいとの強い意気込みを見せておられ、今後の発展が非常に楽しみに感じられました。このジャパン・ボウルの1週間前には日本語弁論大会が行われ、そのレベルの高さに驚きましたが、日本語や日本語を勉強する若者の輪が一層広がって欲しいと強く願ってやみません。





3月22日～23日には、神奈川県藤沢市と姉妹都市関係にあるウィンザー市を訪問しました。川を挟んで米国のデトロイト市が眺められるオンタリオ州南部の主要都市です。同市にはトロント総領事としては6年ぶり、私にとっては初めての訪問でした。ドゥルー・ディルケンス同市長からは「藤沢市との姉妹都市交流はウィンザー市が提携している12の姉妹都市関係の中

でも1-2位を争う活発なもの」との高い評価を伺い、日本との草の根交流がしっかり続いていることを嬉しく思いました。市民の憩いの場であるジャクソン公園では、両市の交流30周年を記念して昨年植樹された3本の桜の木が、まだ背は低く幹も細いものの、寒さに耐えて小さなつぼみをたくさん抱えているところを確認しました。ウィンザー大学ではJETプログラム経験者や文部科学省国費留学生OBが教授を務めていらっしゃる事がわかり、これらプログラムへのウィンザー大学卒業生の参加のアピールにもご協力頂けることになりました。



英国の歴史の香りが漂うウィンザー市にはスコッチ・ウィスキーの愛好者が多く、スコッチを楽しむ人々のクラブがいくつか存在するそうです。市内最大のLCBOショップを視察したところ、トロントでも見かけないような充実したスコッチ・ウィスキー売り場を目の当たりにしました。店長によれば、日本のウィスキーは大変好評で、入荷するとすぐに売り切れてしまうとのこと。日本酒も、売り場面積は小さいながら純米吟醸酒や梅酒などが数種類置かれており、今後の売り方次第で販売はもっと拡大するのではないかと期待を持てる場所がありました。

東京では既に桜が満開を過ぎてしまいましたが、有名なトロントのハイパークの桜や州議会議事堂周辺の桜、そして我が家の庭の桜がいつ咲くのかと心待ちにしています。また、オンタリオ州内での新たな桜の植樹もいくつか計画されており、桜を少しずつオンタリオ州内で広げていくことも楽しみにしています。

